観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年　7 月　31 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（一社）南丹市美山観光まちづくり協会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 京都府南丹市	
所在地	京都府南丹市	
設立時期	2016 年 7 月 1 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの１年間	
職員数	6 人【常勤 3 人（正職員 3 人・出向等 0 人）、非常勤 3 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者）	（氏名） 髙御堂　厚	これまで、美山ふるさと株式会社常務取締役および一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会顧問、南丹市美山エコツーリズム推進協議会事務局長などを歴任され、観光関連事業に関わりを持ち、地域内外でのネットワークも幅広くもっている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー	（氏名） 青田真樹「専従」	（一財）京都ユースホステル協会にて、世界的なユースホステルのネットワークの中で国内外のツーリスト に対応。観光地域マーケティングについて高い知見と能力を持つ。総合旅行業務取扱管理者
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー）	（氏名） 青田真樹「専従」	同上
プロモーションの責任者	（氏名） 海野智咲　「専従」	海外（タイ）をはじめとした、旅行会社等の営業勤務経験を有し、インバウンド事務主任者認定などもち、国内外のプロモーションに高い能力を持つ。
旅行商品の造成･販売の責任者	（氏名） 井本　環「専従」	当協会インターン生を経て、当協会へ入社。入社以降、インバウンド向け修学旅行等の手配業務に従事。国内旅行業務取扱管理者。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	南丹市商工観光課 京都府総合政策環境部・地域政策室　／　観光室	

様式１

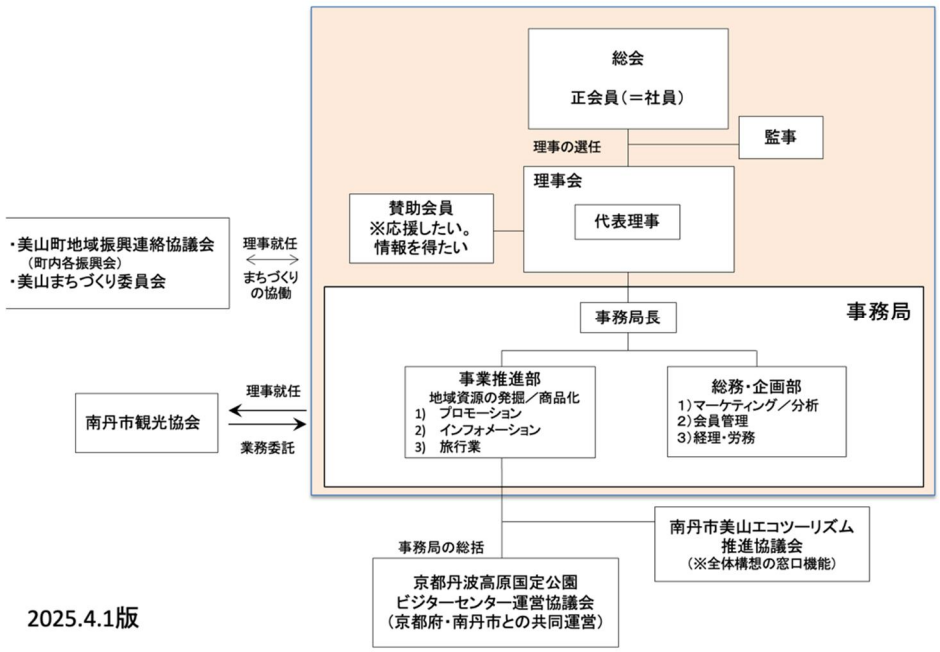
<table>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td>南丹市観光協会
南丹市美山エコツーリズム推進協議会（エコツーリズムの全体構想）
美山ふるさと株式会社（美山町における 6 次産業化推進/ 滞在型観光施設）
美山町内各料飲・宿泊
南丹市商工会（ふるさと名物の開発）
南丹市営バス・京阪京都交通（アクセス改善）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td>①当協会理事会
観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、まちづくり組織、行政担当者の代表者らが当協会の理事の立場となって意思決定に参画
②料飲・宿泊部会
当該地域の飲食店・宿泊施設・体験事業者ら約 40 施設が参画
③南丹市美山エコツーリズム推進協議会は、南丹市、住民自治組織、森林組合、漁協、環境保全団体、観光事業者、NPO 団体などでエコツーリズムの推進を行う各団体の長が参画している。この事務局を本法人が担い、事業運営の理解や判断、協力を仰ぐ機会を持っている。
④南丹市観光協会
南丹市および、南丹市内にある観光協協会とともに 2025 年 3 月に設立。
南丹市観光振興基本計画や「美山町観光ビジョン」に基づき、自治組織や各種団体・事業者・行政が参画し、地域の地域ビジョンを構想し、実現するための組織を構築し観光による地域づくりの実現を目指す。
⑤日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会
BTV 認定地域（アップグレードプログラム含む）11 地域+UN-Tourism で構成。国内における持続可能な観光地域の発信とそのためのブランディングを行う。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td>エコツーリズム大会年 1 回　最新の観光情報に住民が出会う機会の提供
通信　年 4 回発行</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td>【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>２4年度
1.各種商談会参加
・6 月 17～19 日　JNTO 台湾市場訪日教育旅行促進商談会…台北･高雄計 40 校と交流
・9 月 26～29 日　ツーリズム EXPO ジャパン…農水省農泊ブースに出展
・12 月 12 日　農泊地域×旅行会社インバウンド向け商談会（オンライン）…5 社と商談
2.京阪神在住顧客へのアプローチ
・京都市内観光案内所、関西空港へのチラシ配架（継続実施）
・OTA サイトでの旅行商品の継続販売
3.招聘旅行(ファムトリップ)
・11 月 9 日 JNTO フランクフルト事務所ファムトリップ対応</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

		・12 月 18 日　京都府観光連盟・京都市観光協会「まるっと京都ファムトリップ」27 名 ・3 月 12 日　京都府主催　JAL ファムトリップ　シンガポール旅行会社対象　7 名 4.JNTO（政府観光局）との連携 募集内容を適宜確認し、随時応募 ・JNTO パリ　SNS キャンペーン参加 ・JNTO バンコク　タイ旅行会社向けに WEB 情報掲載 ・JNTO 訪日向け WEB サイト 「Japan’s local treasures」記事掲載 「Experience in Japan」体験掲載 5.セミナー登壇 7 月 31 日　自治体国際化協会セミナー 10 月 21 日　三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング観光研究会（オンライン） 11 月 27 日 日中協会広西自治区壮族自治区視察セミナー11 月 28 日　観光庁　持続可能な観光セミナー 12 月 7 日　西の鯖街道　国づくりフォーラム 6.その他 豪州市場 SNS プロモーション ・7 月～9 月（2 ヶ月）広告を最低 1 回見た人数　195,012
	受入環境の整備	・24年度 1.観光コンシェルジュ講座の実施 第 1 回　7 月 5 日オリエンテーション、美山町観光概論 第 2 回　7 月 5 日接遇＆クレーム応対講座 第 3 回　7 月 9 日かやぶきの里景観保全の取組座学、ガイドツアー ⇒新規観光コンシェルジュ登録者…3 名 2.会員対象講座 7 月 5 日　接遇＆クレーム応対講座 （ANA ビジネスソリューション株式会社） ＊観光コンシェルジュ講座、かやぶきの里ガイド養成講座と併せて実施 3.かやぶきの里ガイド・英語ガイド養成講座　年 1 回 第 1 回 7 月 5 日　オリエンテーション、ガイドツアーについて 第 2 回 7 月 5 日　接遇＆クレーム応対講座

		第 3 回 7 月 9 日　かやぶきの里景観保全の取組 座学、 ガイドツアー ＊第 2～3 回は観光コンシェルジュ講座と併せて実施 第 4 回 7 月 19 日 建築・茅葺き職人の技 座学、筆記テスト 第 5 回 7 月下旬～9 月上旬 ガイドツアー実践 ⇒新規かやぶきの里日本語ガイド登録者…5 名、 英語ガイド登録者…1 名 4.農山村教育民泊体験受入家庭向け研修、現地視察 12 月 19 日訪日教育民泊受入 異文化理解研修 （大和飛鳥ニューツーリズム） 1 月 7～10 日　台湾視察研修…8 名参加 ・現地学校訪問 2 校、旅行会社訪問 1 社、 ・持続可能な観光先進地視察（井仔脚瓦盤塩田） （持続可能な農泊モデル地域創出支援事業 活用） 3 月 18 日　農山村教育民泊体験の概要に係る説明会
	観光資源の磨き上げ	観光資源の磨き上げ 1）教育機関を対象とした地域密着、課題解決型研修ツール及びプログラム販売 a.教育研修用事前学習パンフレットの作成 b.パンフレットと連動した美山の人物紹介記事作成 c.地域人インタビュー記事取材、美山ナビでの記事公開 2)地域内の仕事を来訪者が体験コンテンツを造成
	【定量的な評価】 2017 年 1 月に旅行業（地域限定）登録。2024 年に第 3 種へ変更。滞在型観光および教育旅行の誘致を中心に、年間約 5,000 万円の旅行事業収入。マネジメントエリア（美山町を中心）としては約 80 万人／年の受入れに寄与している。地域内観光産業の売上は、約 8.3 億円（2024 年度市観光実態調査）	
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	**【実施体制の概要】** 美山町観光協会および南丹市美山エコツーリズム推進協議会が母体となり設立。構成員（会員）は、宿泊業者（公共の宿、民宿、旅館など）・飲食業者などのみならず、住民自治団体、交通事業者、農産物生産者（森林組合）、食品加工事業者、有限会社かやぶきの里や美山ふるさと株式会社であり、これに、行政（南丹市）や森の京都 DMO など多様な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。京都大学経営管理大学院観光ＭＢＡと連携協定し、まちづくりを持続的な活動にするための「地域経営組織」を DMO が実装するための戦略策定やデータの継続的な収集・分析、戦略評価システムの確立などを共同実施。	

様式１

【実施体制図】



２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

【区域設定の考え方】

美山町における観光産業は、都市部への人口流出により急速に進んだ過疎化、それに伴う農地荒廃問題の対策からはじまった。1989 年に村おこし課を設置以降、「都市農村交流」を軸に豊かな農村景観を活かしたグリーンツーリズムや、地域ごとに農産物の販売や特産品開発を中心に地域経済活性化

に繋げる創意工夫ある取り組みを実施した。また、芦生の森トレッキングや地域文化と自然環境の持続可能性を目指したエコツーリズムなどを展開し観光客は大きく伸びた。2010 年から南丹市美山町区域を活動エリアとするエコツーリズム推進協議会を設置している。1993 年に選定された国の重要伝統的建造物群保存地区（美山町北地区：通称かやぶきの里）や 2016 年度には美山町全域が国定公園となり南丹市域の中でも自然や伝統的な文化において美山ブランドを築いてきた。

これまでの経過を踏まえ、南丹市では、地域内外にも観光地として認知され、かつ実質的に観光の中核を担っている美山町エリアを「観光重点エリア」として設定しています。同時に、美山町における観光地域づくりを軸にして美山町以外にある道の駅、南丹市の観光に資する指定管理施設や民間事業らとの連携を強化し、観光地域づくりの活動を市内に波及させる「オール南丹市の体制づくり」構築に向けて進めていくことが、南丹市観光振興基本計画にも記載されました。

これまでの経過ならびに地域的な現状を踏まえ、周辺市町村との連携も踏まえ美山町を中心とした区域設定とするのが適切であると考える。

【観光客の実態等】

美山町における観光入込客数は、2005 年まではほぼ右肩上がりに増加し約 70 万人代で推移ししてきたてきた。その後 5 年間は一時減少傾向にあった入込客数だが、2010 年から 2015 年にかけては台湾をはじめとする訪日外国人観光客の増加もあり、コロナ以前は、90 万人以上の観光客がおとずれるようになっている。

ただ、美山町の平均宿泊日数は約 1.1 泊(2019 年)と全国平均約 1.3 泊(同年)と比較して短く、観光消費総額の推移は、過去 25 年間上昇と下降を繰り返しながらも 2015 年をピークに減少していたが、2024 年インバウンドの増加に伴い増加に転じた。ただ、美山町の観光客一人当たりの消費額は、京都市の日本人観光客一人当たりの消費額単価約２万円と比べて 20 分の１であり、観光での「稼ぐ力」は十分とは言えない状況である。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

（観光施設）かやぶきの里は、日本の伝統的な暮らしや農山村の原風景を楽しむには魅力的な観光資源である。かやぶき屋根の建造物や風景だけではなく、そこに暮らす人々とのふれあいや交流が、最大の魅力である。

（自然）近畿屈指の清流由良川と芦生の森（京都大学研究林）を代表とする豊かな森と川がある

（食）豊かな自然から生まれ育つ天然鮎、松茸、山菜、 鹿肉、猪肉、お米、野菜等々の恵み。若狭から京に至る街道沿いという地理的条件が影響して鯖寿司、なれ寿司、鰊漬けなどの食文化

（伝統文化）を引き継ぎ松上げ、田歌の祇園神楽、樫原のからす田楽、神社の例祭の他各地に 伝統文化が残っている。

（商業施設）美山ふれあい広場（道の駅）…小さな拠点とし地域のコミュニティーとビジネスの拠点であり、地域の野菜や加工食品、お土産物などの小売店ふらっと美山、美山ふるさと株式会社が経営しジェラートやソフトクリームを販売する美山のめぐみ牛乳工房がある。また京都丹波国定公園ビジターセンターもありエリア内の情報発信の拠点となっている。

その他、かやぶきの里、美山町自然文化村（宿泊、レストラン、キャンプ、会議、多目的グランド、入浴施設等を有する総合観光施設）
（スポーツ）長谷運動公園（野球場、グランド）や向山地区のパターゴルフ場などの施設のほか、自然環境を生かしたスポーツイベントとして、サイクリング盛んである。
美山ロードレースは1988の第 43 回京都国民体育大会（以下国体）のロードレースコースとして開催されたのが始まりである。また、美山自転車の聖地プロジェクト事務局が実施するサイクルグリーンツアーイベントでは、速さを競うのではなく自然の中を走り、風を受けて美山町をくまなく走り、先々で出迎えてくれる地域のみなさんからの声援やドリンクや地元料理の提供に感謝しながら交流するイベントである。その他ファンマラソンとして、トップアスリートたちとの交流や美山町で楽しみながら走っていただくという企画がある。
またアウトドア・スポーツも多く行われ、森ではトレッキングやスノーシュー、川では、ラフティングやパックラフト・カヤックなども行われている。

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

宿泊施設は町内を横断する街道に 40 数件が営業し、宿泊定員は 500 名程である。
施設規模は 60・80・90 人が１施設ずつ、30～50 人が 4 施設、10～20 人が 12 施設、10 人未満が 1 施設である。旧来型の民宿は、各部屋の定員は 3～4 名が多く、トイレや風呂・シャワー付きの 1～2 人部屋を希望する現在の観光客のニーズとは隔たりがある。
近年茅葺きを始めとした古民家住宅を活用した一棟貸しが多く作られ、家族で美山を滞在しながら家族の時間をゆっくりと過ごす宿泊スタイルに変容しつつある

【利便性：区域までの交通、域内交通】

鉄道がない地域で、最寄りの鉄道駅までかやぶきの里から自家用車で約 45 分かかる。観光客の交通機関は、南丹市営バスと京阪京都交通バスに頼っている。市営バスは、これまで通勤通学の利便性を重視していたが平成30年度より主要駅（園部・日吉）から１時間に１本程度の運行が始まる。また民営バスは、週末や観光シーズン限定の１日１往復の運行を行っている。ただ美山町に訪れてからの 2 次交通の手段は限られており利便性が悪い。そのため、JR 園部駅や京都駅までの送迎ツアーに人気があるが、一般客の利便性に関しては 2 次交通が不十分である。

【外国人観光客への対応】

2014年から外客が増加しはじめた。主に台湾、香港からの訪問が中心である。看板や施設の表示等の多言語化が進んでいる。また、おみやげの説明表示や交通機関の乗り継ぎ表示の改善など徐々に進んでいる。訪日客からの予約はWEB中心であるが、地域内事業者は、英語でのメール返信や説明に苦慮しており、DMOが窓口になり、事前のカード決済の仕組みを導入し対応がすすんでいる。
宿泊施設では、各施設とwifiの設置等滞在に関するサービスも整備されてきている。食事に関しては、ベジタリアンやハラルミールの対応の研修会を継続的に開催し、認知が広がっている。
通訳ガイドの育成も行いや英語での観光案内を行える体制も整ってきている。

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光による地域経営組織として貢献度	南丹市からのアンケート調査
延べ宿泊者数	観光統計の基礎となるデータ収集	各施設への直接的なヒアリング
来訪者満足度	民泊事業ならびに外客受け入れに関するマーケティング・商品造成のため	参加者へ直接的なアンケート形式
リピーター率	リピーター顧客の動向を把握し、戦略立案に繋げるため。	アンケート調査を自主事業として実施。
ＷＥＢサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Ｇｏｏｇｌｅ Ａｎａｌｙｔｉｃｓを活用して実施。
住民満足度	観光振興に対する地域住民の理解度を測るため。	個別聞き取り調査。
予約システム（インターネット）を利用して来訪されたお客様に、旅行終了後、感想（レビュー）を書いていただく。	受入地としてのサービス・おもてなし向上と、お客様のニーズ調査。	メールにて実施

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

美山町における観光産業は、都市部への人口流出により急速に進んだ過疎化、それに伴う農地荒廃問題の対策からはじまった。1989 年に村おこし課を設置以降、「都市農村交流」を軸に豊かな農村景観を活かしたグリーンツーリズムや、地域ごとに農産物の販売や特産品開発を中心に地域経済活性化に繋げる創意工夫ある取り組みを実施した。また、芦生の森トレッキングや地域文化と自然環境の持続可能性を目指したエコツーリズムなどを展開し観光客は大きく伸びた。

しかし、市町村合併以降人口減少は加速し、地域別将来推計人口 2018 年推計：国立社会保障・人口問題研究所）に基づくと 2033 年には人口が約半数になるとの予想があり、人口問題は未解決のままである。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み（Strengths） ・かやぶきの里や芦生の森をはじめとする景観 ・長年のエコツーリズムの取り組み ・美山牛乳や地卵、鮎、ジビエといった豊富な地域食材 ・関西圏での知名度 ・関西主要年からの良好なアクセス ・町全体が京都丹波国定公園に指定 ・地域自治への住民の高い意識	弱み（Weaknesses） ・公共交通機関のアクセス ・地域事業者の連携が希薄 ・事前予約あるいは当日参加可能な体験の不足 ・安定的な人材の確保が困難 ・SNS や WEB サイトを利用した情報発信不足

外部環境	機会（Opportunity） ・デジタル技術の進歩 ・マイクロツーリズムの高まり、アウトドア需要や美山の暮らしへの注目の高まり ・2025 年大阪万博開催 ・かやぶき職人の技術を含む 17 の伝統技術がユネスコ無形文化遺産に登録 ・With コロナ社会以降における・集客力のある近隣市町の存在 ・インバウンドの増加	脅威（Threat） ・コロナの長期化における観光需要の減少 ・日本全体の少子高齢化による観光市場の変化 ・労働生産人口の減少・高齢化 ・世代交代が進まない事による価値観の固定化 ・人材育成の視点の欠如

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

○第１ターゲット層　関西圏・首都圏 30 代～40 代子育て世代
宿泊を含む滞在が期待できる、グループサイズの大きい層＝家族層

○ 選定の理由

自給的な暮らしや里地里山での暮らしを目指す都市住民の親子がターゲット。継続的な関係性を持つことにより、関係人口の増加を目指し、単なる観光者から担い手・つなぎ手になってもらいたい。また、 地域の住民にとっては豊かな自然や経験と知識を豊富に身につけ得ている高齢者の方々の活躍の場が提供できることも狙っている。

○取組方針

1）長期休暇期間（夏休み・冬休みなど）を中心に体験と宿泊を伴う施設や体験のモデル事業を実施し SNS 等によって集約し発信する。

2）美山町発で暮らしの発信を行うことで具体的な過ごし方のイメージを持ってもらう。

○第２ターゲット層
美山の暮らしを体験したい中期滞在旅行や中高生の教育旅行及び移住希望者

○選定の理由

美山町内には、恵まれた自然や多様な生物、歴史の紡ぎによって形成されてきた生活文化等、観光資源が無数にあり、これらに興味をもっておられる方は非常に多い。これらのニーズに対して様々に組み合わせて企画・開発することによって、多彩な観光事業の展開が可能である。

多くの調査結果をみると Z 世代はサステナブルに対する意識が高い傾向にある。その背景には、失われてゆく自然環境や資源等による社会不安定さの中で、変わらない暮らしや環境に立脚したものへのあこがれやそれらを守る重要性の認識がある。また、美山 DMO が実施している観光庁の別事業である「第２のふるさと事業」においても大学を中心にした教育機関等との連携事業も、同様の世代へのアプローチを行っている。参加者のうち約 80%が再訪を望んでおり、当該地域への関心や愛着を高くもってもらえている傾向がある。これらの点や、当該地域のこれからの担い手として考える上でも教育旅行で来る中高生は重要なターゲットであると考えている。

○取組方針

地域住民や地域組織との連携を行いながら既存のコンテンツを活用した滞在型観光を行う。
地域内循環を高めることで、精神的にもつながるような運営スタイルを確立する。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	地域全体で稼ぐまちづくりを目指す 「労働生産人口および地域雇用の増加」に向けた観光の役割
②コンセプトの考え方	今や美山町は年間約 90 万人以上の観光客数を誇るが、これからは観光客数の増加を望むのではなく、美山町が有する豊かな自然と伝統文化を尊重し、自然環境に配慮できる責任ある観光客を積極的に受け入れていくことで、住民にとっても、観光客にとっても誇らしい地域を実現する。これにより、一人でも多くの人が美山町に関わりを持ち、最終的にはともに暮らす仲間が増え、美山町がこの先もずっと世界に誇れる素晴らしい地域であり続けたい。

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	観光ビジョンおよび地域運営組織の構築 DMO 内にあるエコツーリズム部会および飲食・宿泊部会 その他部会やワーキンググループの設置やＨＰ、総会による事業報告。
	地域の関連事業者を集めて飲食・宿泊事業者らを中心に情報共有や事業内容の検討の場を月に１回程度設けるとともに、関連事業者に対して研修会の実施やコンサルティング等を実施。 活動内容・成果等の達成状況や取組を記載した事業報告書を作成し、地域の関係者に説明を行う。また、21 年度以降は地域経済・社会の変化の分析結果等を観光ビジョン評価委員会で分析した内容を公表する予定。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	定期的な観光客に対する対面型調査の実施にて評価している。 また、事業者へのサービス向上に関する講習会等を実施。あわせて、飲食宿泊部会でのサービス等の向上に関する取り組みも実施。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	プロモーション、予約、宿泊や体験の手配、精算までのワンストップ窓口の一元化実施する。特にプロモーション活動においては、京都観光連盟、京都府観光室、南丹市観光交流室、森の京都 DMO や京都市観光協会などの機関との連携し観光プロモーションや商談会の機会を得る。また独自に WEB サイトや SNS を利用したプロモーション、エージェントやプレスへ働きかけ。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	700	700	800	850	900	1,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	613	671	836			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	15	18	20	23	25	28
		(1.0)	(2.0)	(3.0)	(3.5)	(4.0)	(4.5)
	実績	16	20	20			
		(0.3)	(3.6)	(4.0)			
●来訪者満足度（%）	目標	90	90	90	90	90	90
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	81	91.4	93.1			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	40	40	40	40	40	40
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	57.0	33.2	35.7			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
これまで旅行消費額および延べ宿泊者数の調査は行っていたが、それ以外のデータについてなかった。その中で何が必要かを検討した結果、消費額はこれまで通り行うが、宿泊者数については、きっちり取れば地域観光の実態を表す基幹データになりうるので DMO が直接行うこととなった。また満足度・リピート率は、当法人独自のアンケート形式による来訪者調査の実施。

【設定にあたっての考え方】
●旅行消費額
従来通り南丹市が調査するデータに基づき実施。コロナウイルス感染拡大により旅行消費額の減少が想定される。できる限り減少を留め 3 年間で現状まで戻ることを目指す。
●延べ宿泊者数
2017 年度より毎月美山町内全宿泊施設にアンケート調査を実施。宿泊者数の動向を統計の基軸として、宿泊者数の傾向を分析し、美山町全体への来訪者動向を見極める。
●来訪者満足度
2018 年度よりかやぶきの里で定期的な観光実態調査開始。美山町内でも拡大しつつそのデータに基づき測定する。満足度の維持を目指す。
●リピーター率
2018 年度よりかやぶきの里で定期的な観光実態調査開始。美山町内でも拡大しつつそのデータに基づき測定する。満足度同様に維持を目指す

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●住民満足度（%）	目標		60	70	70	70	70
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績		68.5	83.4			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●美山ナビへのアクセス（UU）数（件）	目標	320,000	350,000	487,000	500,000	550,000	560,000
		（ ）	（ ）	（ ）	（70,000）	（100,000）	（120,000）
	実績	347,511	361,975	415,792			
		（ ）	（ ）	（55,059）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

検討の経緯】

従来からの DMO として実施してきた誘客を測定する指標を継続するとともに 2020 年に策定している観光ビジョンに基づいた指標を組み入れることにした。

【設定にあたっての考え方】

●住民満足度（%）
観光ビジョンを策定後、住民との巻き込みが大変重要であると考えている。以前からこれについては必要であると考えていたが、現状はなかった。21 年度にビジョン評価委員会において検討しはじめ、2023 年度から実施することが決まった。

●ＷＥＢサイト（美山ナビ）のアクセス（UU 数）
誘客し、予約等につながるためには、美山ナビへの流入を図ることは、SNS 等の有用性を測るのに大変重要であると考えている。

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４）年度	58,580,529	会費収入 1,538,000 受取補助金 18,974,753（南丹市等） 事業収入 38,024,217（視察・調査協力約 382 万円、受託事業約 1,886 万円、旅行関連事業（体験民泊等）1,532 万円）その他収入約 4 万円
2023（Ｒ５）年度	70,325,211	会費収入 1,374,000 受取補助金 19,918,789（南丹市等） 事業収入 48,364,930（視察・調査協力約 380 万円、受託事業約約 1,628 万円、旅行関連事業（体験民泊等）2,729 万円）その他収入 667,492 円

2024（Ｒ６） 年度	90,226,682	会費収入 1,514,000 受取補助金 14,396,000（南丹市） 事業収入 74,274,561（視察・調査協力約 607 万円、受託事業約 2,107 万円、旅行関連事業（体験民泊等）4,713 万円）その他収入 42,121 円
2025（Ｒ７） 年度	65,626,700	会費収入 2,000,000 受取補助金 7,601,000（南丹市） 事業収入 56,000,000（視察・調査協力約 600 万円、受託事業約 0 万円、旅行関連事業（体験民泊等）5,000 万円） その他収入 2.5 万円
2026（Ｒ８） 年度	65,626,700	会費収入 2,000,000 受取補助金 7,601,000（南丹市） 事業収入 56,000,000（視察・調査協力約 600 万円、受託事業約 0 万円、旅行関連事業（体験民泊等）5,000 万円） その他収入 2.5 万円
2027（Ｒ９） 年度	65,626,700	会費収入 2,000,000 受取補助金 7,601,000（南丹市） 事業収入 56,000,000（視察・調査協力約 600 万円、受託事業約 0 万円、旅行関連事業（体験民泊等）5,000 万円） その他収入 2.5 万円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	52,622,508	事業費 49,140,830 管理費 3,481,678
2023（Ｒ５） 年度	70,131,281	事業費 62,416,644 管理費 5,267,737 法人税等 2,446,900
2024（Ｒ６） 年度	89,794,689	事業費 82,214,314 管理費 4,204,085 法人税等 3,376,294
2025（Ｒ７） 年度	65,626,700	事業費 58,976,000 管理費 5,216,000 法人税等 1,434,700
2026（Ｒ８） 年度	65,626,700	事業費 58,976,000 管理費 5,216,000 法人税等 1,434,700
2027（Ｒ９） 年度	65,626,700	事業費 58,976,000 管理費 5,216,000 法人税等 1,434,700

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

・自主事業収入を増やすための取り組み（海外からの教育民泊・京都駅発着の企画旅行等）
※地域限定旅行業→第 3 種旅行業へ変更し業務範囲の拡大。着地型旅行商品の造成や販売を行なう
・特定財源の確保に向けた取組（宿泊税やふるさと納税などを DMO の財源化へ行政と検討）
・会費収入を増やすための取組（DMO メンバーシップ会員の会費制度の整備等）
・各事業者のホームページの多言語の原稿作成や観光地や宿泊施設での英語対応
・観光のみならず物販等地域ない産品の販売拡大への協力することによる収入源の確保

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

南丹市は、一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会を当該都道府県及び市町村における地域ＤＭＯとして引き続き登録したいので一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会に協力します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

森の京都 DMO の取締役(理事)に当協会代表理事が参画し、取締役会に出席している。その他、必要に応じてホームページへの掲載や農家民泊事業等取り組みベースでの会議・情報交換を行っているが役割分担等については、十分に協議されておらず、現在、南丹市も含めて検討を行っているところである。

【区域が重複する背景】

京都府・府内市町村で取り組む「もうひとつの京都」（海の京都、森の京都、お茶の京都）を持続的に発展させるため、各エリアに DMO を設立・運営（海は H28～、森・お茶は H29～）。古くから「丹波の国」として、歴史文化を共有してきた「森の京都」は、５市町（福知山市・綾部市・京丹波町・南丹市・亀岡市）の双方に、が含まれており、広域周遊観光の相乗効果を生み出す活動を行っている。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

森の京都 DMO は、広域での農山村教育旅行特に、国内学校の受け入れや、各地域でのコンテンツ造成、森の京都エリア内の情報提供を行っている。一方当協会 は、かやぶきの里を中心にしたサスティナブルツーリズムを軸にした取り組みの他、西の鯖街道協議会への参画により、南丹市および京都市・おおい町・高浜町などと美山町をハブとした広域周遊観光等の取組を行っている。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

森の京都が持つ、保津川下りや、湯の花温泉、丹波ワイン、綾部水源の郷等のディスティネーションと美山町のかやぶきの里を中心とした周遊観光を組み合わせることで、エリア全体としての魅力アップと受入体制の充実を図ることができる。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	青田真樹
担当部署名（役職）	事務局長
郵便番号	601-0722
所在地	南丹市美山町安掛下 23
電話番号（直通）	090-7367-8797
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	aota@kyoto-miyama.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	南丹市
担当者氏名	國府幸明
担当部署名（役職）	商工観光課（課長）
郵便番号	622-8651
所在地	南丹市園部町小桜町
電話番号（直通）	0771-68-0050
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	kokufu338@city.nantan.lg.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（候補／登録）【登録区分】（DMO名称）

様式2

記入日： 令和7年7月31日

基礎情報

マネジメント・マーケティング対象とする区域】
京都府南丹市美山町
【設立時期】2016年7月1日
【設立経緯】
①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 髙御堂厚
【マーケティング責任者（CMO）】 青田　真樹
【財務責任者（CFO）】 青田　真樹
【職員数】 6人（常勤3人（正職員3人・契約職員0人、出向等0人）、非常勤3人）
【主な収入】
旅行事業 47百万円、委託事業21百万円等（24年度）
【総支出】
事業費82百万円、一般管理費4百万円、法人税等3百万円（24年度）
【連携する主な事業者】
有限会社かやぶきの里、美山ふるさと株式会社をはじめとした町内のDMO会員を中心とした事業者

KPI（実績・目標）

※（ ）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年度	2023（R5）年度	2024（R6）年度	2025（R7）年度	2026（R8）年度	2027（R9）年度
旅行消費額（百万円）	目標	700 ( )	700 ( )	800 ( )	850 ( )	900 ( )	1,000 ( )
	実績	613 ( )	671 ( )	836 ( )	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	15 (1.0)	18 (2.0)	20 (3.0)	23 (3.5)	25 (4.0)	28 (4.5)
	実績	16 (0.3)	20 (3.6)	20 (4.0)	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	90 ( )	90 ( )	90 ( )	90 ( )	90 ( )	90 ( )
	実績	81 ( )	91.4 ( )	93.1 ( )	—	—	—
リピーター率（%）	目標	40 ( )	40 ( )	40 ( )	40 ( )	40 ( )	40 ( )
	実績	57.0 ( )	33.2 ( )	35.7 ( )	—	—	—

戦略

主なターゲット】
国内→関西圏及び首都圏子育て世代。学生。移住やSDG'S等に関心のある層
海外→教育旅行台湾・オーストラリアを中心。
【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
国内→第2のふるさと事業をはじめとした、来訪者と地域を結ぶ取組み。「サステイナブルツーリズム」を中心とした、持続可能な観光地づくりの実施
海外→教育旅行エージェントを対象にした商談会や感慨プロモーションを実施
【観光地域づくりのコンセプト】
地域全体で稼ぐまちづくりを目指す。「労働生産人口および地域雇用の増加」に向けた観光の役割

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
①宿泊・旅行商品の販売
②ガイドツアーの実施　4,046名
③その他企画旅行等　653名
④教育旅行の実績　43校1,318名
【受入環境整備】
1）事業者向け研修の開催
2）ガイド・コンシェルジュ養成
3）観光情報に関するパンフレットや地図の発行
4）地域事業者向けアンケート調査

【情報発信・プロモーション】
1）海外プロモーション
2）国内プロモーション 各種商談会への参加
3）ホームページおよびSNSの活用
4）エコツーリズム大会の開催

【その他】
1）BTVの普及・啓発
…認定地間での連携事業の実施
⇒連携協議会の設立

ツーリズムEXPOジャパン出展